

掲 示 板

2019年度 第3号 通巻97号 2019年12月21日発行



氷魚

普通だけど普通じゃない

12月になり、比良の山々の山頂が白くなる日も出てきました。

この季節になると、琵琶湖ではアユ漁が解禁となります。主に養殖用の生きたアユ（活アユ）がエリ漁により漁獲されています。漁獲されるアユは、体がまだ透明な稚魚（氷魚）です。この時期の漁は予め漁獲量が設定されており、予定量に達すると漁は一旦休止されます。そのため、私たちが氷魚を口にできるのは年が明けて漁が再開されてからになります。

滋賀県には氷魚の食べ方として、氷魚をさっと湯がいた釜揚げや佃煮などがあります。アユの稚魚である氷魚を食べる文化は、他の地域ではまず見られません。氷魚を食べることは、琵琶湖ならではの特別なものです。つまり、自分たちにとって普通であることが、他の地域の人々から見れば普通ではない特別なこともあるのです。そのようなことが、私たちの日常の中に他にもたくさん潜んでいるはずで、それらに気づけるように、私たちが感度を上げておきたいですね。

只今、フィールドレポーター調査として「近江の食」調査を行っています。一般に「近江の食」とされている食材や料理が、現在どの程度食べられているのか知るためのものです。みなさんの調査への参加をお願いします。

学芸員
片岡佳孝

☒ ☒ . . . ☞ ☞ ☞ ☞ も く じ ☞ ☞ ☞ ☞ . . . ☒ ☒

	普通だけど普通じゃない	片岡佳孝	P1	4	秋のアカトンボ調査報告	椋島昭紘	P10
1	夏のせみ調査中間集計結果	椋島昭紘	P2	5	弁天池にきれいなお花がさいた	しのの	P11
2	びわ博フェスのワークショップイベントに参加しました	スタッフ一同	P4	6	お宅のえび豆調べていただけませんか	中野敬二	P12
3	セミは記憶にとどまっていたか	津田國史	P9	7	活動報告・予定	編集局	P13

1. フィールドレポーター2019年度第1回調査

夏のセミの調査中間集計結果

スタッフ 椋島昭紘

夏にお子さんやお孫さんと一緒にできるセミの調査でした。セミは昆虫類の中では大型で鳴き声や姿や形で種類の見分けがしやすく、特に夏の時期に集中して羽化するので皆さんが身近で調査しやすいと思いました。調査するセミの種類は2005年度と同様に主に6種類を調査して頂きました。調査期間は6月末から9月30日でした。

調査票集計のまとめの途中結果を報告します。

1. 調査参加者と報告件数

参加者は20名で、報告数は134件でした。

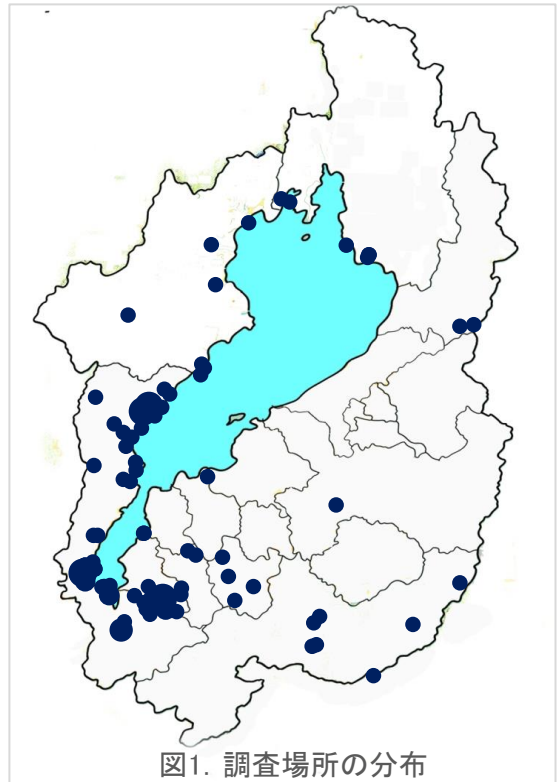
2. 調査された日

6月29日から9月30日でした。

3. 調査地点の分布

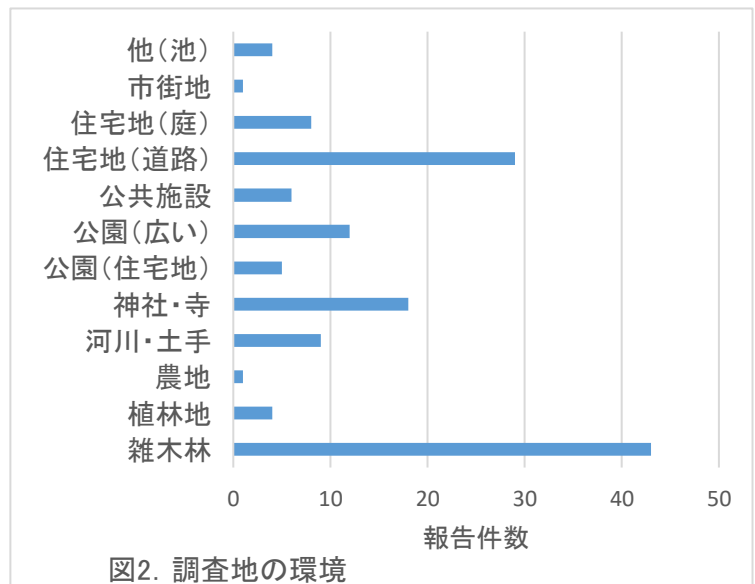
県内分布図は図1です。

調査された11の市の内訳は、大津市85件、草津市18件、高島市8件、甲賀市7件、長浜市6件、湖南市3件、米原市2件、守山市2件、野洲市1件、栗東市1件、東近江市1件でした。



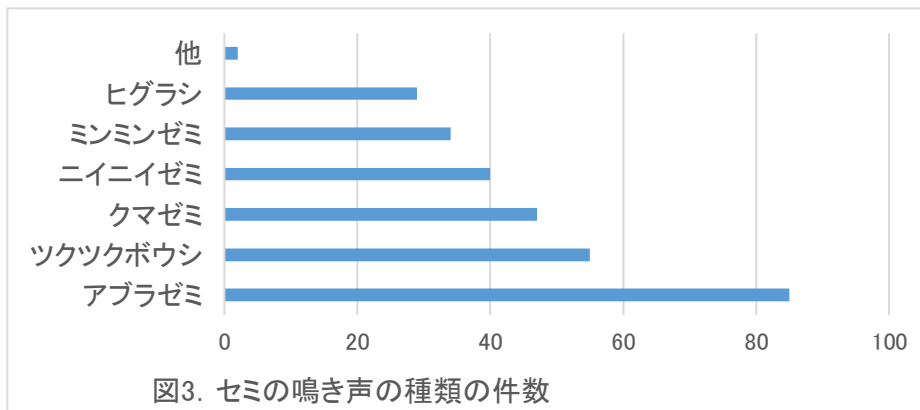
3. 調査地の環境

雑木林、住宅地の道路、神社・寺、公園（広い）の順に多かった。



4. 観察地点中心に聞こえたセミの鳴き声の種類と報告件数

アブラゼミが
一番多かった。



5. あなたが今年初めて鳴き声を聞いたセミの種類と日時、場所

調査票を郵送したのが
6月15日でしたので、
調査を始められたのが6
月下旬以降になり、その
頃はセミが活動していた
と思います。

ニイニイゼミの鳴き声
が多く聞かれました。

月	日	時刻	住所	セミの種類
6	9	13	長浜市湖北町	ニイニイゼミ
6	24	13	守山市赤野井町	ニイニイゼミ
6	29	15	草津市山寺町	ニイニイゼミ
6	29	10	湖南市石部西	ニイニイゼミ
7	2	10	大津市花園町	ニイニイゼミ
7	5	8	大津市大將軍	ニイニイゼミ
7	7	19	大津市北比良	ヒグラシ
7	7	13	草津市下物町	ニイニイゼミ
7	7	12	甲賀市土山町	ニイニイゼミ
7	8	13	米原市柏原	ニイニイゼミ
7	9	10	草津市桜ヶ丘	ニイニイゼミ
7	10	14	大津市平野	ニイニイゼミ
7	12	10	大津市大萱	クマゼミ
7	13	19	栗東市荒張	ヒグラシ
7	13	9	草津市南草津	クマゼミ
7	20	16	大津市陽明町	ニイニイゼミ
7	25	9	東近江市八日市	アブラゼミ

表1. 今年初めて鳴き声を聞いたセミの種類と日時、場所



クマゼミ



アブラゼミ

2. びわ博フェスのワークショップに参加しました

フィールドレポータースタッフ 一同

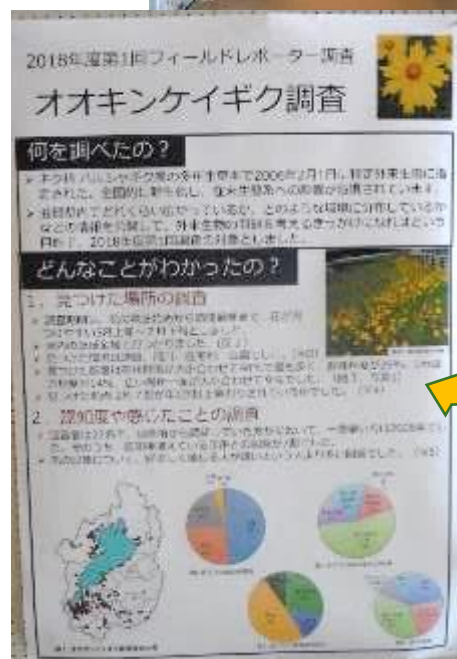
今年も恒例のびわ博フェスのワークショップイベントに参加しました。

今年度第1回調査の「夏のセミを調べよう」に関連付け、テーマを「セミあそび・セミクイズ」と決めスタッフ全員でワークショップのコーナーを分擔し、入場された多くのご家族の対応に当たりました。

予約なし自由入場の2時間の開催時間に105名と多くの参加者を数えました。大混雑する時間帯があるかと思えば客足ばったり止まる時もありましたが、終了時にはスタッフから「ちょっとしんどかった」の声もあり盛況のうちの終了であったと思います。

そんなスタッフの思いをそれぞれ書いてもらいました。イベントの中身が十分に伝わる内容です。

またロビーではいろいろな活動団体さん、“はしかけ”さんのパネル展示コーナーが催せられており、フィールドレポーターからも昨年の報告「オオキンケイギク調査（第1回調査、春）」「集まれ！モミジ(カエデ)の仲間たち（第2回調査、春）」「集まれ！モミジ(カエデ)の仲間たち（第2回調査、秋）」2件のパネル展示がされ、来館された方々の注目を集めていました。



セミクイズのコーナー

担当 前田雅子

「声は聞いたことあるけれど、姿は…」

滋賀県で夏によく見られる6種類のセミを取り上げた「セミクイズ」で、“セミの名前”と“姿”を線で結んで答えるコーナーを担当しました。

展示の標本や絵（細密画）を見れば答えが分かるようになってはいますが、6種類もあって難しいのでしょうか、苦戦している人がありました。「アブラゼミは…… 羽が茶色だから～ これ!」と、まずは、名前を聞いたことがある種類から始められます。でも、クマゼミとミンミンゼミはどちらも大型で、羽の色も透明なので、行き詰まるようでした。「体の色と模様を見てね。」とヒントを出すと、クマゼミの黒色、ミンミンゼミの緑色に気づき、以後の種類もスムーズに解答されていました。

大人でも答えを間違えるくらいですが、小さい子(幼児)が上手に見分けているのに感心しました。素直で鋭くとらえる目が、違いを見分けているように思いました。また、家族で協議しながらチャレンジされているのはいいなあ、と思いました。



山手で鳴くヒグラシやミンミンゼミだけでなく、住宅地にいるツクツクボウシでさえ、姿をとらえるのは難しいと思います。でも、声を聞けば、どの種類がすぐ分かるところが、セミの面白さです。「茶色のセミ（アブラゼミ）はよく見るけど、シャーシャーという声（クマゼミ）がしても、姿は見たことがない」と、参加者の一人がおっしゃっていました。「セミクイズ」で知ったクマゼミの姿を、来夏に見つけてくださることを願っています。

お断り：当コーナーの写真に関しては一部修正をかけ、使用させていただいています。編集担当

セミクイズのコーナー

考え中と答え合わせ

担当 梶島昭紘

セミの鳴き声をパソコンのスピーカーから会場に流しながらお客様をお誘いしました。開始早々は部屋中を探るようにして入って来られる方もありましたが、その後多くの皆さんが参加して下さいととても良かったです。

参加された方々は入口でクイズの問題用紙を受け取って、問題を見て、そして考えながらセミ6種類の展示したコーナーを覗いて、セミの姿と名前を確認して、自信満々の表情の方と、少し安心した表情の方などそれぞれありました。その後鳴き声クイズコーナーの席に移動して椅子に座って頂き、セミの6種類の鳴き声を種類ごとの番号順にスピーカーから流しました。鳴声は一つの種類ごとに約20秒です。一つの種類毎にすぐに解答用紙に書ける達人の方と鳴き声が全部終わっても不安そうに周りを見回している方など表情が様々で面白かったです。

全部終わって掲示した回答表を説明すると、お子さんと親御さんや友達どうして答え合わせされているようすがとても微笑ましく、楽しんで頂けた様子がうかがえて良かったです。



受け付けのコーナー

担当 松村順子

受付に聞こえし、フェスのセミしぐれ

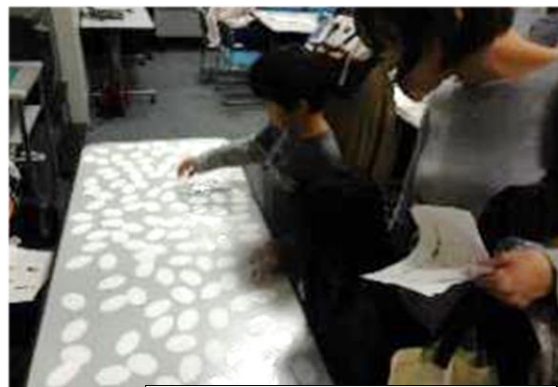
我々のセミあそびの会場の受付に、行列はできませんでした。入場者は、約100名、20数家族程で、会場はゆったりとしていました。小さなお子様連れの方は、会場を覗いてあまり混雑していないから入りやすいと呟いていましたし、ぶつかったり待たされたりもなく助かった様子もありました。イベント会場が空いているのも、それはそれで悪くないことのようにです。



さて、後半、入場者が途切れがちの時、勇気をふるってエントランスやアトリウム周辺で呼びこみをしてみました。折角のびわ博フェスですから、もっと多くの方に楽しんでいただきたいとの一心。夏の間中のうるさいセミだとしても、人々にもっと関心を持ってほしい、そのための企画だからです。しかし、人々の「セミ」への興味の希薄さは意外。セミはさほどみんなの好きな昆虫ではないのかもしれない。呼び込みや受付をして、そう感じられました。

しかし、受付からは、セミクイズ、セミ折がみ、セミグライダー、セミシールのどのコーナーも見渡せていましたから、参加者の皆さんは、どのコーナーでも気楽に楽しく熱中して、その場が離れられない子たちも見えていました。それに、満員御礼の嬉しい悲鳴はでなかったものの、スタッフの一人ひとりが自らも楽しそうに対応している様子も伝わってきました。

受付の時、無責任に「ゆっくりお楽しみください」と言いましたので、帰っていく皆さんの笑顔と、「初めて姿と鳴き声一致した」との学生さんの明るい一言が、何より嬉しく思えました。案外、セミは隠れファンの多い人気ものかもしれない。これも、受付の実感でした。



セミワッペン神経衰弱ゲーム

折り紙コーナー

担当 村野、中野

物づくりに関して子どもの感性はとても鋭い

大きい色紙、小さい色紙、色鉛筆や目に使ってもらうシールをたくさん用意しました。折り方の説明用紙はクマゼミ、ミンミンゼミ、とセミグライダーの3種類。折順のパネルとCD映像も準備して万全の体勢です。さて、開場。

初めはみんな、慎重ですし、戸惑いがちですが、部屋全体の盛り上がりに合わせて一気にヒートアップするのは毎回同じ傾向です。夢中になるとお手本は二の次。器用に色付けされたセミやパッチリお目目のセミがどんどん出来あがりしました。

セミの目にと小さな円いシールを準備しました。

黒色にしたい子は色鉛筆を使っていましたが、多くの子どもが赤色嗜好でした。たまたまだったのでしょうか。少し興味がありました。

大きい丸と小さい丸を使って二重の目はかわいかったです。

セミグライダーは個性が勝負。思い思いの出来上がりのものをもって、飛ばしコーナーに移動します。



お父さんが熱中される姿が今年もありました。家に帰ってから子どもさんと一緒にセミづくりしていただいていたらありがたいですね。

お土産に小さなセミを持って帰ってもらいました。両面テープで服に付くようにしましたので簡単に装着でき館内を歩いてもらって宣伝にもなりました。ただし少々接着力が弱く、翌日展示交流員の方から館内に結構落ちていましたよと言われました。まことに申し訳ありませんでした。



せみとばしコーナー

担当 井上修一

フィールドレポーターによる「セミアそび」コーナーでは今夏の調査テーマ「夏のセミ調査」にちなんで折り紙で実際に飛ばすことができる「セミグライダー」に挑戦しました。セミグライダー本体は「折り紙クラブ*1」さん発案のものをベースにし、更に飛んだセミがただ床に落ちるのではなく、セミが木の幹を模した垂直の壁に貼りついて止まることができることを目指しました。試行錯誤を重ねた結果次の二つの工夫により実現できました。



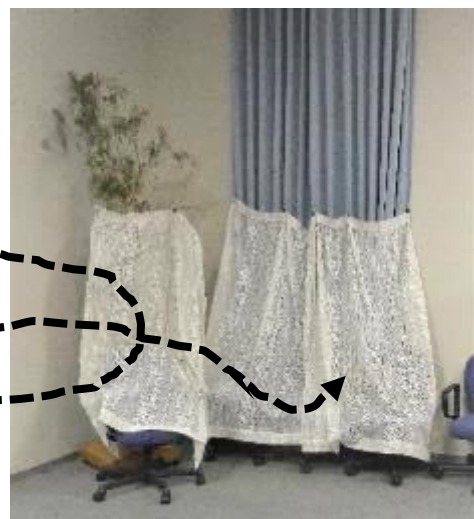
①セミグライダーの頭部に粘着性を持つ「ヌスピトハギ」の茎を触角に見立て貼り付ける。この触角にはグライダーの飛び方を安定させ滞空時間を伸ばす効果もありました。参考(*1) 折り紙クラブ URL



www.origami-club.com/fun/cicada/index.html

②セミが止まる壁の素材にレースのカーテンを使用する。「ヌスピトハギ」の茎表面の小さな突起とネバネバがレースの表面に引っ掛かり、飛びまわるセミが樹の幹に止まる動きを表現することができました。

セミを飛ばすにはコツがありますが、小さな参加者でもすぐに慣れて楽しむことができました。



3. セミは記憶にとどまったか

津田 國史

セミと聞いてもそれが形にならない幼児には、日常生活とは異なる所に連れて来られ、何やかや眼にしても関心を示す術を知らず、興味の対象ではなかったのかな。



親の興味が幼児の関心をとらえるとは限らず、眼にした物に手を出すのは幼児のしぐさで、興味の対象とは断定できない。対象に関心を示すのは小学生以上だ。しかし淋しいことに関心を持って鋭い目を向ける中高生以上はあまり館に来てないようだ。

フェスでFRSが、来館者に興味を持ってもらえるようにと作った展示物が、期待どおりに成果をあげるのはごくまれだろう。

よく思うのだが、中学生や高校生が仲間とともにやって来る姿をついぞ見たことが無い。彼等にこそ来てほしいのに。彼らの関心は何処にあるのか。先生の引率で館内を巡回しておしまいになる行事でしか、彼らは博物館に縁がないのだろうか。親に連れられて来る年齢の子供は、館内で眼にした対象をどう理解しているのだろうか。興味を惹く物を眼にした記憶はどのように残されるのだろうか。

私は自分の幼児期の記憶をたどることがある。記憶にある最も古いのは、室戸台風と言われる昭和期の台風だ。名前までは記憶してなかった。台風の過ぎた日に親父の肩車から眺めた台風後の田畑の風景が、私の記憶のもっとも古い映像として確実に残っている。

今も私の記憶に残るのは普段は見ない変化があったからだろう。有難いことにそれが通常の出来事ではなく、社会現象として歴史に留められる事件であったことが幸いして、私の記憶に名前が加えられて留まった。これは私の3歳9ヶ月のできごとだった。

今日の彼らにセミが記憶されているかどうかは甚だあやしい。が、全く記憶に留まっていないとも言えないので、期待半分としよう。問題は中高生だ。自分の意思で館に来た彼らならそれなりに獲得した知見があるはず。これが熟成され開花するのを待つにやぶさかではないが、それを視ることは叶わないかも。

4. 秋の赤トンボ調査報告

フィールドレポータースタッフ 椋島昭紘

10月12日（土）に今年も秋のトンボ調査を計画しましたが、台風の影響で大荒れの天気になり中止しました。それで天気の回復した日に調査に行ける人が個々に調査をしました。場所は昨年と同じ大津市伊香立南庄町です。

調査日は10月14日1名、13時30分から約1時間、10月16日2名、11時から約1時間行いました。合計で229頭でした。残念ながらマーク付のトンボは今回も見つかりませんでした。

集計結果は表1の通りです。図1に過去4年の調査結果を比較して示しました。アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの比率は昨年とほぼ同じです。アキアカネのオスとメスの比率は図2の通りです。メスが多い傾向は同じでした。



アキアカネ			ナツアカネ			ノシメトンボ			合計
オス	メス	小計	オス	メス	小計	オス	メス	小計	
73	84	157	14	13	27	24	21	45	229

表1. 今年度調査頭数

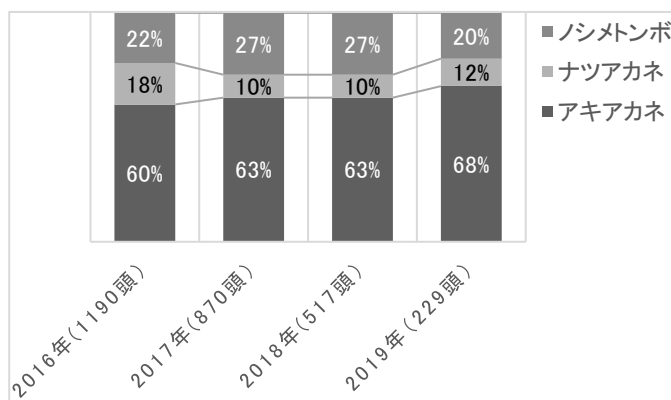


図1. 赤トンボ3種の年度比較

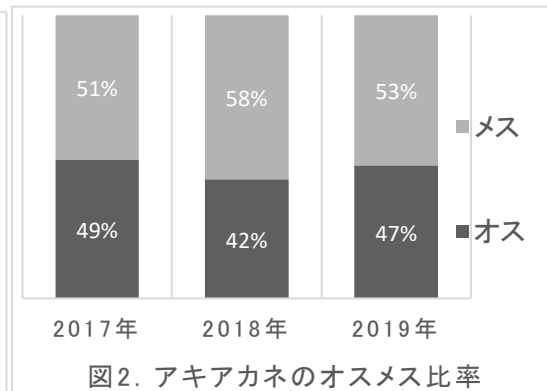


図2. アキアカネのオスメス比率

5. 弁天池にきれいなむらさきのお花がさいた！

投稿：2019.10.5

しのの

表題： 弁天池にきれいなむらさきのお花がさいたよ

投稿日：2019/10/5 投稿者名：(ハンネームやイニシャルでも可)♡☺

弁天池の夏の植物。ヒシの次は、
ホテイアオイの花がさいた。けいりゅうす。
調べたら、外来種でした。はじめで
見つけた時は、小さなかたまりでしたか。
今では、大きなかたまりになっています。
むらさき色の花が、たくさんさいています。

♡♡♡



にこちゃんにみえたところ



レポーターのかわいい投稿が届きましたので
紹介します。

6. お宅のエビ豆を調べて頂けませんか

中野敬二

前号掲示板（96号）でエビ豆のエビと豆の比率を参考として報告し販売店さんの記事を書きましたところ結構面白いという感想を複数の方から頂きました。

定例の調査対象とせず、気長に追加調査をするのも面白かろうとスタッフ内では確認をしています。再度調査の概要を記載しますので興味のあるメンバーの方、気楽に参加して頂けませんか。

計量と記録の方法

- ① 販売店や製造店を記録する。
- ② 原材料名シールがあれば、材料の記載順で先にくるのはエビか豆か記録する
(原材料は、量の多い順に記載されるため。) 量り売りなどで不明の場合は「記載無」とする
- ③ **50g** 計る：(調理用のg単位秤量器で結構です) 汁気が多ければ、汁気をきって固形物のみ
- ④ エビと豆にわけ、それぞれ数える(エビの頭だけや胴体だけは、ひとつあたり0.5匹とする)
- ⑤ それぞれの数と重量を記録する
- ⑥ 出来れば商品の全体がわかる写真を撮っておいてください。

項目 資料	材料名順	エビ数 (匹)	エビ重量 (g)	豆数 (個)	豆重量 (g)	エビ：豆 (g対比)
サンプル1	大豆	59	16.5	35	33.6	1：2
サンプル2	記載無	16	4.5	52	45.8	1：10
サンプル3	記載無	20.5	4.3	60	45.4	1：10.5
サンプル4	記載無	58.5	10.4	46	39.3	1：4
サンプル5	大豆	25.5	7.6	52.5	42.2	1：6
サンプル6	大豆	11.5	3.7	50.5	47.0	1：13
サンプル7	大豆	23.0	5.2	44	43.9	1：8

サンプル1-3は前回調査(再掲)、4-7今回調査

サンプル4；商店直売 サンプル5-7；パック販売品

エビ:豆のg対比は整数表示で結構です



報告先：〒525-0001 草津市下物 1091 琵琶湖博物館 フィールドレポーター係

月	日	内容	参加者	主な議題・活動
10月	5日(土)	定例会	7名	①びわ博フェスワークショップ内容・役割確認
	12日(土)	調査		①アキアカネ調査台風のため中止
	19日(土)	びわ博フェス参加	11名	①びわ博フェスワークショップの開催・進行 ②感想会議
11月	2日(土)	定例会	10名	①2019年第2回調査内容検討 ②FRSの博物館内の立場確認
	16日(土)	定例会	10名	①2019年第2回調査発行に向け最終調整 内容詰めと発送準備の日程確認
12月	7日(土)	定例会	10名	①2019年度第2回調査「滋賀県の食材・料理を調べよう、発送」②掲示板97号内容検討
	21日(土)	定例会	9名	①掲示板97号発送

1月～3月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
1月	18日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
2月	1日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
	15日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
3月	7日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
	21日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13:30～17:00に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

今号はセミづくしの内容になりました。猛暑の中でのセミ調査ご苦労様でございました。恒例のびわ博フェスのワークショップイベントもセミ関連で行こうとスタッフ

一同色々勉強しました。おかげ様で盛況のうちに開催出来ましたので、各自の思いを文章にして記載させていただきました。イベントにも多数参加いただき感謝しています。

さて今年2回目の調査は「近江の食調査」です。ご案内はすでにお手元にお届けしています。お正月でご家族、ご親戚の方が顔を揃えられる良い機会ですので気軽に話題にして貰えたらと思います。色々な回答が出てほしいと思います。期待を込めて待っています。(中野)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物1091
TEL 077-568-4811(代) FAX 077-568-4850
Email: freporter@biwahaku.jp